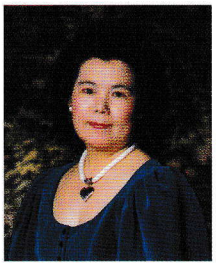
日本声楽発声学会
The Japan Association for Research in Singing
学会通信
２０１３年１０月２７日　第２６号

会員のみなさまへ

会長　末 芳枝



今年の夏の暑さは格別でしたが、会員の皆様方にはお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。

ご承知のように、夏の研修会は8月19日(月)、20日(火)の二日間、新大久保の日本福音ルーテル東京教会で開催され、好評裡に修了致しました。

〔講座Ａ〕の大中恩氏が体調を崩され入院なさり、心配致しましたが、8月19日には責任を果たして下さいました。

氏は多くの芸術歌曲を作曲されていますが、常に新しい詩との出会いを感謝なさり、次々と曲を創られる創作の経緯や、「現在作曲している曲が一番好い曲だと信じて創作している」との氏のお言葉に、創作意欲の原点を伺う事ができました。山本富美理事、北原聖子様の歌われた歌の詩人の山岸千代栄様、青木一恵様もご上京下さり、詩の内容の説明をなさいました。合唱も加わり、会員も共に歌い一層興味深い講座となりました。

ユーモアたっぷりのお話と、お優しい、非常に気遣いのある大中氏には、純粋なまでのご誠実さを感じました。幼い子供のための数々の童謡、「さっちゃん」「犬のおまわりさん」等々、可愛らしい歌を発想される方は、こういう方であってこそと心楽しく講座を拝聴致しました。氏の童謡を通して、数多くの子供達が、母親の歌う歌声から音を憶え、唇を見つめて発音や言葉を憶え、歌詞から語彙を増やし、人間にとって一番大切な“感性”を養う事が出来たでありましょう。氏のお言葉「音楽は楽しいもの、楽しく歌うこと」をモットーに、歩みを進めて行きたいと感じた次第です。

〔講座Ｂ〕竹田数章理事の講座では、声帯の長さ、重さ、調節の仕方により声域が異なる事、成長期の段階で急いで声域を決定する事は危険である事等、指導者への重要なポイントを指示されました。

〔講座Ｃ〕（二日目）塚田佳男氏の日本歌曲に於ける歌い手と伴奏者との組んでのレッスンでは、日本語の発音、アクセント、フレーズィング、解釈、テンポ、ポルタメントを伴う表現の仕方等、伴奏者を含めて細やかで適切な指導をされていました。

〔講座Ｄ〕の歌の集いでは、川村英司元理事のドイツ歌曲（J.Brahms、Hugo　Wolfの歌曲）による演奏で、立派な歌唱芸術の醍醐味を味わわせていただきました。

小川副会長、川上副会長の指導指揮する二つの合唱も加わり、充実した会となりました。

沖縄支部が設立されました

沖縄県立芸術大学の豊田教授を中心とする六名の方々と泉琉球大学名誉教授の七名の方々により結成されました。「この地に相応しい学会支部として発展させたい。実演の場を多く持たせて、若い声楽家を育成したい。若い世代へ受け継ぐその基盤を作りたい」との豊田支部長の熱い、意欲ある挨拶でした。本部を代表し私が祝辞を述べ、本部からの支部設立祝を、同行なさった永井和子事務局次長が活動の支援金を、沖縄支部豊田支部長に贈呈致しました。続いて泉副支部長から本部学会の活動報告があり、五郎部事務局長の入会案内等の説明がありました。式典に続き設立記念演奏会となりました。理事六名が歌われました。全員が実力を充分に発揮されその素晴らしい歌唱は、支部設立第１回に相応しい、記念すべきコンサートになりました。この声楽家、芸術家の方々による沖縄支部の設立と発展は、学会にとって大きな意義があると確信いたしました。

総会終了後、理事会に永井和子事務局次長と出席し、今後の活動と支部運営とを意見交換する事ができました。本部は支部としっかり連結し、共同で研究する場を多く持ち、可能な限りの活動支援をしたいと思います。沖縄支部の発展を心から期待致して居ります。

平成２５年度役員選挙結果報告

日本声楽発声学会
２０１３年度役員選挙　結果報告

本選挙開票得票

会長

末　芳枝　得票数　１３０票

得票総数　１５３票
（内　白票１８票　無効５票）

理事

小川昌文	得票数	１３０票
河合孝夫	得票数	１１６票
川上勝功	得票数	１２９票
佐々木正利	得票数	１２５票
鈴木慎一郎	得票数	９９票
竹田数章	得票数	１３０票
淡野弓子	得票数	１２３票
豊田喜代美	得票数	１２３票
永井和子	得票数	１２６票
虫明眞砂子	得票数	１０１票

得票総数　１２０２票
（内　白票０票　無効０票）

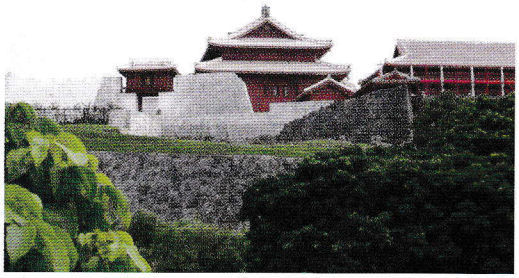
会長推薦理事

泉　恵得
山本富美

以上の選挙結果により、会長１名、理事１０名及び会長推薦理事２名をもって、新体制を結成し、2013年6月1日より活動を開始いたしました。

沖縄支部発足

日本声楽発声学会沖縄支部設立の記念式典が、本年9月29日(日)沖縄県立芸術大学奏楽堂ホールにおいて、本部より駆けつけて下さいました末会長と永井事務局次長ご列席の中、開催されました。



沖縄県立芸術大学から見た首里城

発起人は、豊田喜代美(本部理事)、泉恵得(本部理事)、五郎部俊朗(本部会員)、山内昌也、仲本博貴、大城治、西條智之です。本年7月31日に発起人による会議を開催し、運営体制等を以下のように決めました。豊田喜代美（理事・支部長・沖縄県立芸術大学教授）、泉恵得（理事・副支部長・琉球大学名誉教授）、五郎部俊朗（理事・事務局長・沖縄県立芸術大学准教授）、山内昌也（理事・事務局次長・沖縄県立芸術大学専任講師）、仲本博貴（理事・沖縄県立芸術大学非常勤講師）、大城治（理事・沖縄県立芸術大学非常勤講師）、西條智之（理事・沖縄県立芸術大学非常勤講師）。

左から五郎部事務局長(テノール), 豊田支部長(ソプラノ), 泉副支部長(テノール), 大城理事(バス・バリトン), 山内事務局次長(テノール), 仲本理事(バリトン)

連絡先は電話・FAXが098-884-1213で メールはgoroube@okigei.ac.jp(五郎部研究室)です。会費は、年会費3000円、学生年会費1000円(大学院生含む)、入会費2000円(一律)、法人会員一口 10,000円、と決定されました。

沖縄支部は、琉球古典音楽との両輪による運営体制を目指すことを決め、現在、琉球古典音楽の実演家・教育者としてご活躍の比嘉康春氏、仲嶺伸悟氏、山内昌也氏が会員です。沖縄支部は、演奏会開催を活動の軸とし、実演家の演奏向上のための講座・講演・ワークショップを行っていくこと、また、学術学会及び芸術の本質に則って本部と共に活動していく中で、人材育成・社会貢献を果たすことに努めることを確認しました。

式典は、沖縄支部設立の経緯と概要説明（豊田支部長）、末会長の祝辞（日本声楽発声学会の概要説明を含む）、活動支援金の授与（末会長・永井事務局次長）、日本声楽発声学会活動内容の説明（泉副支部長）、会員募集要領の説明（五郎部事務局長）が行われ、小休止後の記念演奏会では、山田耕筰、ブリテン、シュタウト、ヘンデル、R.シュトラウス、プッチーニ、ビゼー他の作品が、理事により演奏されました（ピアノ伴奏は武田光史氏）。

沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール入口にて末会長

今も、沖縄独自の文化が根強く市民の生活と心の中にある沖縄には、未だ失われていない、かけがいのないものがあると感じます。例えば、ほとんど全ての結婚式場には本格的な舞台が常設されており、大体200～300名を集めて催される式での歌や舞いの出演者（ご親戚・友人）は、「生命をかけたような真剣勝負で臨む」ことを聞いておりましたが、実際、歌や舞いを真剣に皆で楽しむ精神が、当たり前のように人々の生活の中にあると私は感じており、それは尊いことと思っています。

日本声楽発声学会・沖縄支部は、沖縄県内の会員と共に発声を学ぶ「場」、沖縄県の優秀な実演家を日本国内外に紹介する「場」、歌を通しての美しい学術文化交流の「場」として世界に開かれた存在であることを願っています。

沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール（記念式典と演奏会の会場）

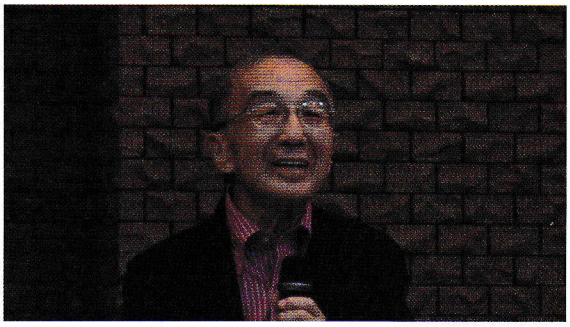
来年度11月例会の沖縄開催が本部理事会決定となり、運営を任された沖縄支部は、本部理事会の意向を受けて『琉球古典音楽を知り、発声を学び合う』というコンセプトで、演奏会を中心に、講座・講演・研究発表・ワークショップを企画しており、本部理事会の審議を経て執行されることになります。良い例会にすべく、理事・会員共に一丸となって努める所存です。皆さま、是非、沖縄にいらして、ご一緒に真剣に楽しく、歌に集いましょう！よろしくお願いいたします。

日本声楽発声学会沖縄支部長
豊田 喜代美(日本声楽発声学会理事)

夏季研修会報告

夏季研修会の様子を、写真を中心にお知らせします。詳しくは学会誌に掲載の予定です。「歌の集い」につきましては後半に記事がありますのでご覧下さい。

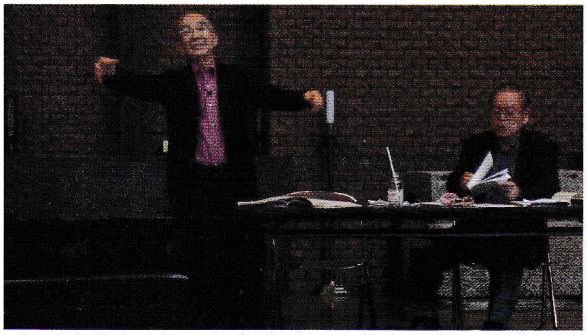
講座A　特別講演「詩と音楽の融合」



大中恩先生

作詞家の山岸千代栄氏(左)、青木一恵氏(右)

山本富美理事(↑)、北原聖子氏(↓)の演奏



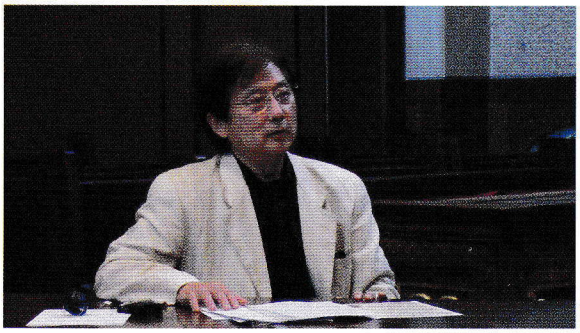
合唱を指揮する大中先生とゲスト大野敏彦氏

大中先生の指揮で歌う参加者

講座B　音声生理学講座

講演する
竹田理事

講座C　日本歌曲公開レッスン



塚田佳男先生

指導を受ける竹下裕来氏、田澤儀高氏（pf）

講座D「歌の集い」

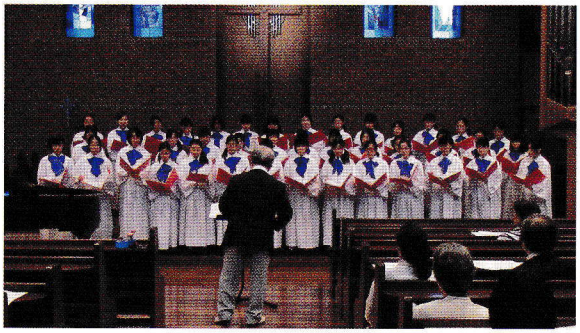
2013年8月20日(火)午後１時～３時
日本福音ルーテル東京教会　２F 礼拝堂

2011年に始まった「歌の集い」がこの日第８回目を迎えました。昨年に引き続き夏季研修会での開催が決まり、演奏部門からの提案で川村英司氏（バリトン、本学会名誉会員）の演奏とお話、出演希望のあった女声アンサンブル The Mermaids、横浜雙葉学園聖歌隊の合唱というプログラムで充実の時を過ごすことが出来ました。

今年の５月、83歳になられた川村英司氏がこの日のために厳選された曲目は、人生の深淵を覗くようなブラームスと諧謔や皮肉を歌ったヴォルフの作品群で、どの曲もひねりの効いた個性的な詩と音楽でした。東　由輝子氏のピアノと共に歌い進まれる中、「休止符に意味がある」、「この歌は女性は歌わない方がよい」などなど貴重なお話も伺うことが出来ました。さらにご用意下さった歌詞カードには「自然な声と演奏」と題する9000字余の川村先生のお考えも添えられていました。

後半のステージには横浜国立大学、大阪教育大学、東京音楽大学の若いOGたち12名からなる「女声アンサンブル The Mermaids」の華やかな笑顔が広がり、小川昌文指揮でア・カペラの木下牧子作品、さらに田澤儀高氏のピアノと共に三善晃作品が歌われました。三善晃氏はこの四十数日後の10月４日に亡くなられましたが、The Mermaidsはこの日がデビューとのこと、メンバーの皆さんにとっては思い出深い日となったのでは・・・三善作品はさらに歌い継がれて行くことを祈ります。

最後のステージでは中１から高３までの女子で構成された「横浜雙葉学園聖歌隊」が川上勝功氏の指揮によって、パレストリーナ



（伊）、モラレス（西）、ニーステッド、ヤイロ（諾）、ヨルゲンセン（丁）、コチャール（洪）の宗教歌を演奏、第一声から「礼拝で歌う」というミッションスクールの長い伝統のなかで育まれた歌声が響き渡り、ルネサンスから現代に至る宗教歌を興味深く聴くことが出来ました。(文責：淡野弓子)

会員からの投稿

世紀のプリマドンナ、コロラトゥーラ・ソプラノ歌手
～　エディタ・グルベローヴァ女史に寄せて　～

末　芳枝

１９７０年、当時ウィーンに留学していた私は、国立歌劇場でモーツァルトの『魔笛』に出演していたグルベローヴァ女史の『夜の女王』を聴く機会を持った。

偶然であったが、可愛らしい、やや小さめの可憐な声で歌っている若いコラトゥーラ・ソプラノ歌手に驚いた。その美しい声、整えられた響き、細部に至るまで非常に正確な音程で、何の臆するところなく、高音がスポンスポンと心地好く当たり、テンポ、リズム好く、高い芸術性を感じるアリアであった。私は非常に感激して聴き入った。その歌手が現代世界の人々を魅了する世紀の歌手　Ｅｄｉｔａ　Ｇｒｕｂｅｒｏｖａのウィーン・シュターツオーパのデビューだったのだ。

翌１９７１年夏、女史のＲ・シュトラウスの歌曲によるリサイタルのリハーサルを聴くチャンスを得た。ザルツブルグのモーツァルテウム大学に隣接したホールでのリハーサルであった。伴奏は私の恩師Ｄｒ.エリック・ヴェルバであった。丁度講習会に参加していて友達となったリンツのソプラノ歌手がグルベローヴァ女史の前のご主人の生徒であり、女史とも非常に親しい人で、「リハーサルを聴きに行こう」と誘ってくれたのだ。校舎の中をぐるぐる通り抜けて、ホールへ連れて行ってくれたのだった。

ホールの最後列の隅に二人だけで静かに座り、息を飲んでそこに釘付けとなって聴き入った。グルベローヴァ女史は、民俗衣装のグレーのウールで、衿が緑色のスーツの上着を肩に羽織って、殆ど大きな動きをせず次々とＲ・シュトラウスの難曲を歌い続けて全プログラムを歌い終わった。ニコニコと舞台から降りてきて、私達二人と握手し、「講習生に聴かせてあげればよかったわね」と語りかけた。私はまたしても驚いた。リハーサルはあまり聴かせたくないのが通常であるからである。伴奏のヴェルバ教授は「どう感じるかね？」と尋ねられた。私は「天空からエンジェルが舞い降りて来て歌っているようでした」と私の真の気持ちを答えた。

爾来、今日までの４３年の間、ヨーロッパへ期間を決めて出かける私には、なかなか女史の歌をあちらで聴くチャンスが少なかったが、日本で（日本公演１５回）登りつめて行く女史の歌曲リサイタル、オーケストラとの数々のアリアによるリサイタル、オペラ公演で堪能し、沢山の感動を受けた事に感謝したい。そしてその天賦の才能とすさまじい努力を見つめてこられた幸せを感じる。

日本での公演は、昨年１１月のドニゼッティの「アンナ・ボレーナ」で最終となった。ヨーロッパに於いても２０１５年までで演奏活動の全てを終わらせるとの事であるが、その後に女史が講習会を開いて下さり、後進の為に秘訣を少しでも明かしてくれる事を今後の楽しみとしたい。「永く歌い続けるためには、声帯に無理をさせないこと、歌う前の身体的準備を充分すること、自分に適合する役を歌うこと、身体を酷使しないこと」（『朝日新聞』のインタビューより）女史の貴い銘言である。

この言葉は歌い手のみならず、指導者の立場に於いても大切な要素となる。

一人々々の生徒に相応しい曲を与える事、つまり技術的、音楽的に成長の段階に応じて、適切に曲を与える事が、最も大切な事である。声帯を大切に守り乍ら歩を進める事が、指導者の責任である事をもう一度強く感じる次第である。

（2013年春投稿）

～　ベルカントを辿る　～

河合孝夫

声楽の、現代につながる声楽教育の基本とは何かは、本会の会員ならば誰でも興味のあるテーマで、中でも「ベルカント＝美しい歌い方」は、我々のみならず世界中の声楽に関する人々の共通テーマである。では、このベルカントの概念は、どのような経緯でいつ頃生まれ、どこでどのように教育されて現代に至ったのだろうか。

一方、現代につながるベルカントを教えてきた教育機関の変遷を現代から遡って概観してみると、創立年に多少の考え方の違いはあるものの、現代日本の「音楽大学」は１８８７年の東京音楽学校の創立に始まる。これは欧米の音楽大学をまねたもので、欧米の有名音楽大学には１８０８年創立のミラノ音楽院、１８１２年創立のウィーン国立音楽大学、１８２２年創立の王立音楽院ロンドン、１８５０年創立のベルリン音楽大学、１９２５年ジュリアード音楽院があり、これらは１７９５年創立のパリ音楽院の近代的教育システムに刺激を受け創られたものである。こうして見ると、我国を含む世界の音楽大学が、フランス革命を境に概ね１００年の間にできた事が分かる。

さて、近代的音楽大学の手本となったパリ音楽院のConservatoireという呼称は、Conservatorio(イタリア語の孤児院)で孤児達に音楽教育をしたことに語源がある。それは、１５３１年ナポリ創立のConservatorio Santa Mariadi Loretoあるいは１３４６年ベネツィア創立のピエタ慈善院Ospedale della Pietàに始まる。また、中世の声楽教育は、Schola cantorumを基にされており、その起源は７世紀のグレゴリウス１世、そして、４世紀のシルヴェステル法王にまで遡る事ができる。

このように考えると、ベルカントは教会での音楽教育と基をいつとする事が分かる。

このベルカントの流れをSchola cantorumの初期教育から始めてどのように現代のベルカントに至ったのか、時代を区切りながら書き進めていきたいと考えている。会員諸氏には博学な方がおられるので、是非このコーナーに原稿をよせて頂き、共に話を進めていければ興味深いコーナーになるのではないだろうか。　　(2013年9月投稿)

会員の動向

・淡野弓子理事　出版『バッハの秘密』平凡社新書　　定価882円

・米山文明顧問　DVD『元気になる声と呼吸』呼吸と発声研究所

・米山文明顧問,米山章子会員　講演会「美しい声とは？どのようにしたら美しい声になるか？」　アスピスホール 8月27日(火)

・豊田喜代美理事出演の「祈り・細川ガラシャと共に」9月1日（日）　サントリーホール・ブルーローズ

・池田京子幹事出演の演奏活動３０周年記念ソプラノリサイタル 津田ホール 9月13日（金）

・山田　実相談役出演のマタイ受難曲口語日本語版（抜粋）　9月21日(土)日本福音ルーテル教会東京教会礼拝堂

～～　コンサート案内　～～

＜レクイエムの集い＞

メンデルスゾーン歿後第166回目の記念の日

フェリクス・メンデルスゾーン＝バルトルディ

(1809.2.3 ~ 1847.11.4)

《エリヤ》作品70

浦野智行:バリトン(エリヤ) 淡野桃子:ソプラノ

淡野弓子:アルト Z.ファンダステーネ:テノール

管弦楽:ユビキタス・バッハ 椎名雄一郎:オルガン　合唱:メンデルスゾーン・コーア&ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京　指揮:淡野太郎

11 / 4 [月・休] 15:00開演 [14:30開場]

所沢市民文化センターミューズ　アークホール

西武新宿線「航空公園駅」東口より徒歩10分

（バス５分）
主催：Musica poetica ムシカ・ポエティカ
T&F：03-3998-8162／03-3970-0585
http://www.musicapoetica.jp/ 全席自由
¥4,000（一般） ¥2,500（学生）
チケット予約／マネージメント：菊田音楽事務所 T&F：042-394-0543

今後の予定

第９８回例会（１１月例会）

１１月２４日(日) １０：００～１６：３０
会場 東京藝術大学
(午前)5-109教室、(午後)第1ホール
＊午後は、柴田睦陸生誕１００周年記念演奏会を行います。詳細は案内をご覧下さい。

第９９回例会(５月例会),第５０回総会

５月２５日（日） １０：００～１６：３０
会場 東京藝術大学
特別講演 楠威志、野村四郎
現役演奏家 河野克典（バリトン）

平成２６年夏季研修会

９月頃を予定 会場未定
５０周年記念演奏会、ワークショップ

第１００回記念例会(１１月例会)

会場 沖縄県立芸術大学奏楽堂（案）
第１００回例会と沖縄支部発足を記念し、沖縄県で開催いたします。詳細は決定次第随時お知らせいたします。

事務局から

会費納入のお願い

未納の方は早急にお振込下さいますよう、お願いいたします。

お振込先
ゆうちょ銀行
口座番号 00170-0-119920
加入者名 日本声楽発声学会

事務局だより

事務局長 小川 昌文

新執行部が発足し、約5ヶ月が経ちました。この間、末会長の強力なリーダーシップのもと、理事の皆さんは本当に熱心にまた誠実にそれぞれの仕事を行っていただいております。8月の夏期研修会は多くの方に参加いただき成功裏に終えることができました。また、7月には沖縄支部が新たに発足し、9月29日は設立記念式典が盛大に執り行われました。豊田、泉両理事のご努力にこの場をお借りして御礼申し上げます。来年は設立50周年を迎える本学会ですが、様々なイベントを企画しています。日本声楽発声学会の今後のさらなる発展のために引き続き会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

編集後記

幹事 相川 修一

今回の学会通信第２６号は、当初６ページにて作成の予定でした。ところが、掲載内容の検討を進めるなかで、次々に提案がなされ、８ページに増やすことになりました。

河合理事より、会員のみなさんの投稿を促す記述があります。ぜひ盛り上げて下さい。

会員の動向については、手元に資料があるものを記載しました。情報を事務局にお寄せいただき、交流が深まることを期待します。

２０１３年１０月２７日
日本声楽発声学会 学会通信 第２６号
発行人 末 芳枝
編集人 相川 修一
発 行 日本声楽発声学会事務局
〒241-0002 神奈川県横浜市
旭区上白根1-5-5-552 小関 方
TEL/FAX 045-952-3813
e-mail :jars@jars-voice.com
HP: http://www.jars-voice.com